



2018年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内）

当研究所は、宮崎県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者を対象にインターネットアンケートを活用した冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 冬季ボーナスは、全体の77.4%が「支給される」と回答し、ほぼ例年並みの結果となった。増減見込みは「増えそう（21.9%）」の割合が前年比3.1P上昇した。
2. ボーナスの見込み額は、「10万円以上30万円未満（42.6%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（65.8%）」が最多で、貯蓄の目的は「老後の生活（43.6%）」、貯蓄の方法は「定期性預貯金（56.0%）」が最も多い。
4. ローン返済は、「自動車（48.3%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は、「衣料品（51.5%）」に次いで「靴・バッグ類（34.6%）」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター（56.1%）」が最多だった。県外での買物予定地は、九州5市（※）の中で「福岡市（73.7%）」が最も多い。
6. 今後の旅行・レジャーの予定先は、「九州内（76.4%）」が最も多い。
7. 生活状況は「変わらない（61.0%）」が最も多いものの、DIは「▲11.8」と前年比7.0ポイント（P）悪化した。
8. 品目別の物価状況DIは「食品（生鮮食品を除く）」が「+55.4」と最も高い。

※ 福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

調査の実施要領

調査時期：2018年11月19日（月）～11月25日（日）

調査対象：宮崎県内の給与所得者

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：523名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	97	18.5	独身	215	41.1	男性	261	49.9	会社員	468	89.5	
30歳代	145	27.7	既婚	子供有り	243	46.5	女性	262	50.1	公務員	55	10.5
40歳代	144	27.5		子供無し	65	12.4	合計	523	100.0	合計	523	100.0
50歳代以上	137	26.2	合計	523	100.0							
合計	523	100.0										

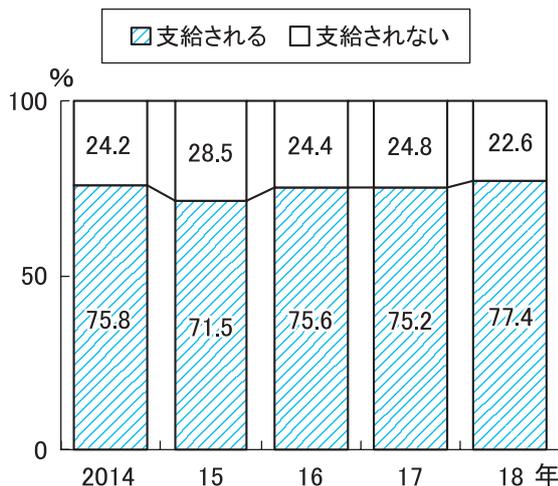
※四捨五入の関係で内訳の総和と合計は必ずしも一致しない。

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が77.4%

今冬のボーナスは、「支給される」が77.4%、「支給されない」が22.6%で、ほぼ前年並みとなっている（図1）。

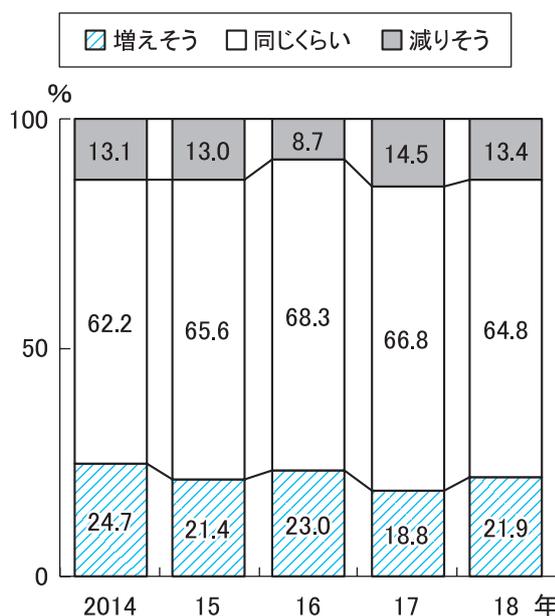
図1. 冬季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「増えそう」が上昇

ボーナスの増減見込みは、「増えそう（21.9%）」が前年比3.1P上昇した（図2）。一方、「同じくらい（64.8%、同▲2.0P）」と「減りそう（13.4%、同▲1.1P）」は前年より低下している。

図2. 冬季ボーナスの増減見込みの推移



2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満（42.6%）」が最も多く、「30万円～50万円未満（23.2%）」「50万円～70万円未満（13.9%）」と続いた（図3）。

会社員は、「10万円～30万円未満」が54.4%と最も多い（表1）。前年比では「10万円～30万円未満」を除き上昇した。

図3. ボーナスの見込み額

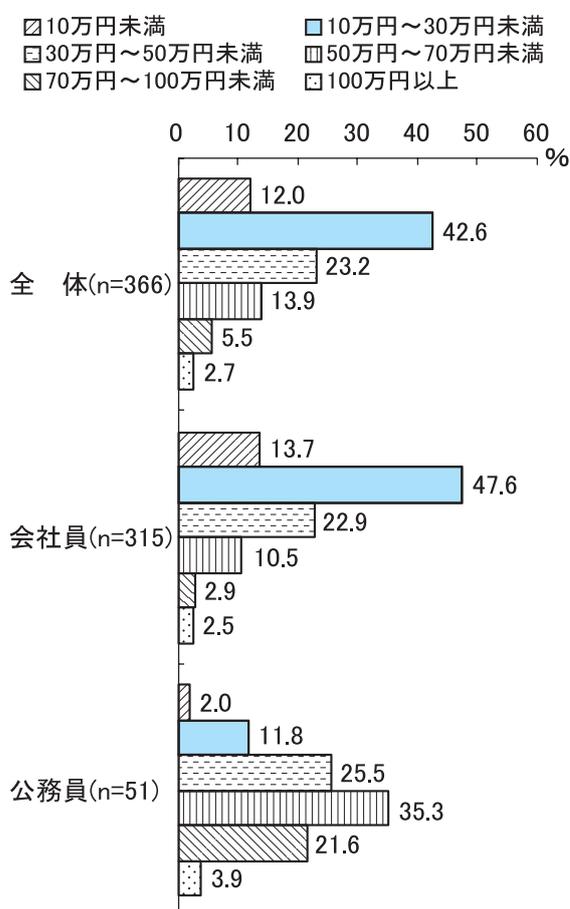


表1. 会社員の見込み額

(単位: %, P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2018年	13.7	47.6	22.9	10.5	2.9	2.5
2017年	9.4	54.4	22.5	9.4	2.3	2.0
前年比	4.3	▲6.8	0.4	1.1	0.6	0.5

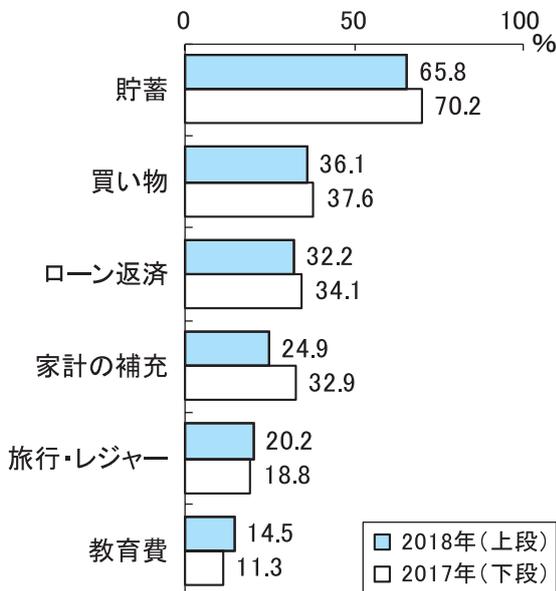
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは、「貯蓄(65.8%)」が最も多く、以下「買い物(36.1%)」「ローン返済(32.2%)」「家計の補充(24.9%)」と続いた(図4)。

前年と比べて上位4位は前年を下回ったが、「旅行・レジャー」「教育費」は前年比上昇した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1) 「貯蓄」

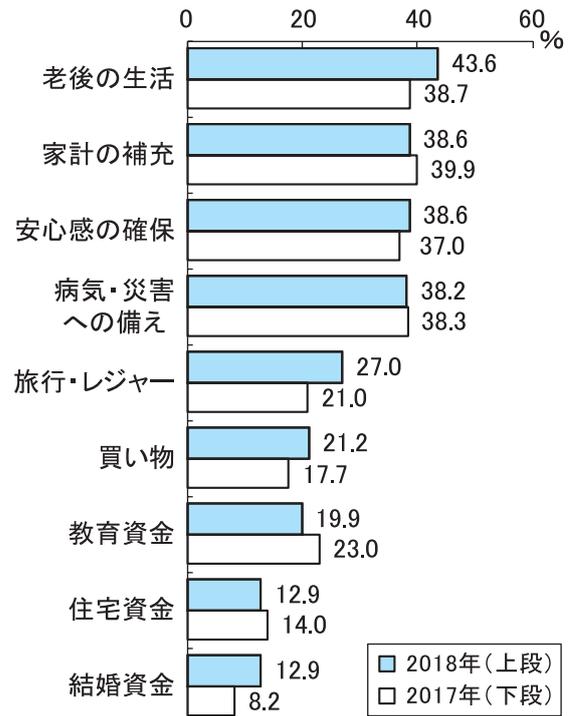
①貯蓄の目的(複数回答)

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は、「老後の生活(43.6%)」「家計の補充(38.6%)」「安心感の確保(38.6%)」となった(図5)。

「老後の生活(前年比+4.9P)」「安心感の確保(同+1.6P)」など今後の生活不安の解消を目的とした回答率が上昇したほか、「買物(同+3.5P)」「旅行・レジャー(同+6.0P)」など消費目的の回答率もそれぞれ前年を上回った。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

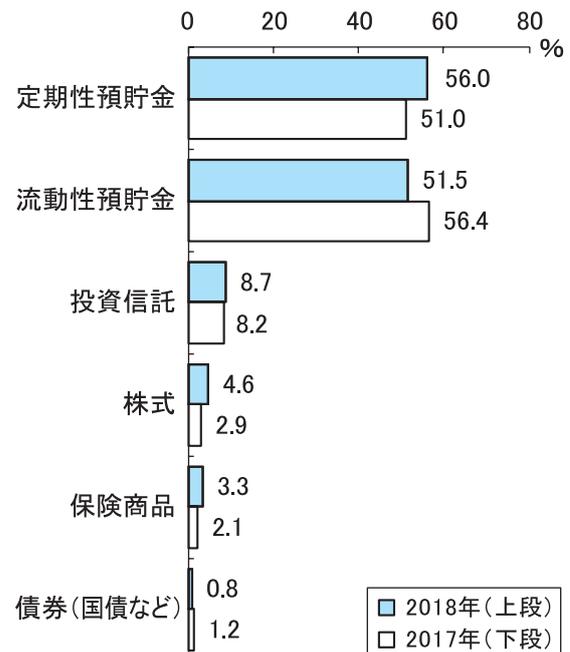


②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、1位が「定期性預貯金(56.0%)」2位は「流動性預貯金(51.5%)」と、預貯金志向が依然強い(図6)。預貯金以外での貯蓄割合は、総じて低い。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



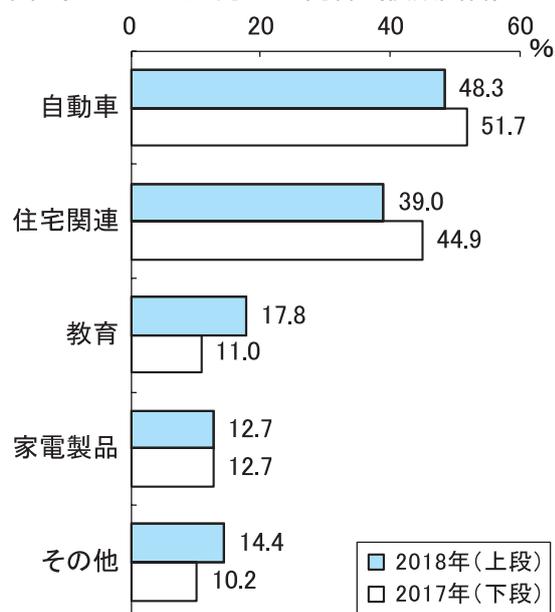
(2) 「ローン返済」(複数回答)

「自動車」「住宅関連」が二大項目

ローン返済は、「自動車(48.3%)」と「住宅関連(39.0%)」の回答が上位を占めた(図7)。

前年と比べて「自動車」「住宅関連」が低下し、「教育」は上昇した。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買い物」

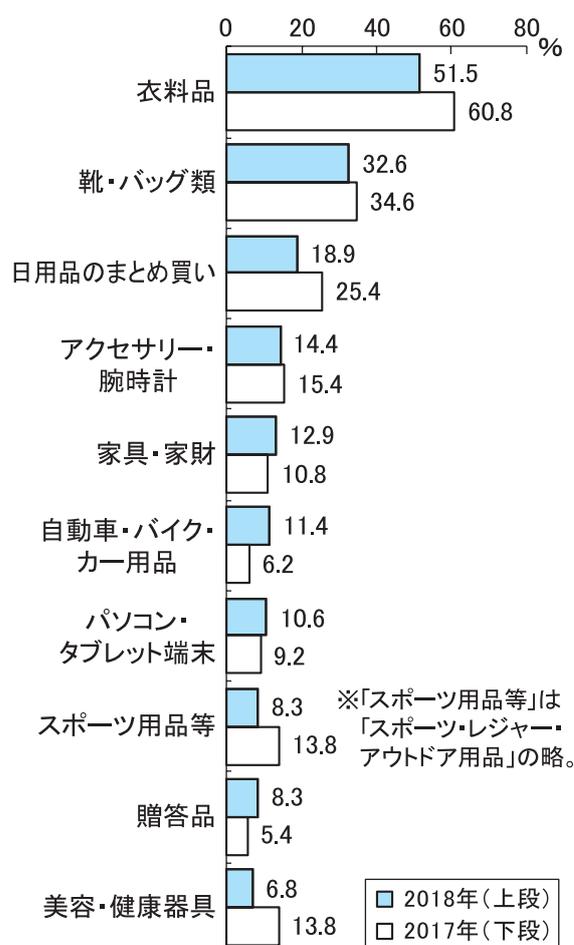
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は、「衣料品(51.5%)」が最も多く、2位の「靴・バッグ類(32.6%)」4位の「アクセサリ・腕時計(14.4%)」など、ファッション関連の商品が目立った(図8)。

上位4位は前年を下回り、「衣料品」は9.3P、「日用品のまとめ買い」は6.5P低下した。「家具・家財(前年比+2.1P)」「自動車・バイク・カー用品(同+5.2P)」「パソコン・タブレット端末(同+1.4P)」は上昇した。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

ショッピングセンターがトップ

買物予定先を店舗の形態別で見ると、全体では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(56.1%)」が最も多く、以下、「通販・ネット販売(47.7%)」「デパート(28.0%)」と続いた(次頁表2)。全ての店舗形態で前年比低下し、「専門店」は18.9%と、同10.3P低下した。

居住地別でも、全ての地域で「SC」が最も多く、延岡市では「SC」が前年比20.3P上昇した。「通販・ネット通販」も延岡市は52.6%と3市の中で最も多く、前年を5.0P上回った。宮崎市と都城市は全ての店舗形態で前年を下回った。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)(単位:%)

買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	デパート	量販店	専門店
全体	56.1	47.7	28.0	22.0	18.9
宮崎市	52.6	42.1	33.3	21.1	22.8
都城市	63.0	48.1	18.5	22.2	14.8
延岡市	63.2	52.6	31.6	26.3	21.1
	42.9	47.6	23.8	19.0	23.8

回答者数 132人 ※上段:2018年 下段:2017年

③買物予定地(複数回答)

「小林地区(注5)」を除く全ての地区において、買物予定地を地元とする回答が目立ち、「宮崎地区(注1)」は94.5%が地元と回答したほか、「日南地区(注4)」は地元と宮崎市が同率1位となった(表3)。

県外は、「小林地区」が66.7%(前年比+26.7P)と最も多く、「延岡地区(注3)」が27.6%(同▲14.3P)と続いた。

「延岡地区(注3)」「都城地区(注2)」は地元に次いで「宮崎市」の回答が多かった。

表3. 買物予定地(複数回答、居住地別)

買物先 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区 (注1)	94.5	-	1.8	-	-	14.5
	94.5	-	-	-	-	16.4
都城地区 (注2)	58.3	79.2	4.2	-	-	4.2
	52.6	73.7	-	-	5.3	21.1
延岡地区 (注3)	55.2	3.4	58.6	-	3.4	27.6
	29.0	-	48.4	-	-	41.9
日南地区 (注4)	100.0	-	-	100.0	-	-
	50.0	33.3	-	16.7	-	50.0
小林地区 (注5)	66.7	33.3	-	-	33.3	66.7
	80.0	40.0	-	-	40.0	40.0

回答者数 112人 ※上段:2018年 下段:2017年

- (注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
(注2) 都城市、北諸県郡
(注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
(注4) 日南市、串間市(今回の調査では回答無し)
(注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

④県外での買物予定地(複数回答)

県外での買物予定地は、「福岡市(73.7%)」「大分市(26.3%)」「鹿児島市(21.1%)」となった(表4)。前年比では、福岡市(+22.1P)が大幅に上昇した一方、鹿児島市は14.4P低下し、大分市と順位が入れ替わった。

表4. 県外での買物予定地(複数回答)(単位:%)

年	福岡市	大分市	鹿児島市	熊本市	北九州市
2018年	73.7	26.3	21.1	10.5	5.3
2017年	51.6	25.8	35.5	16.1	6.5

回答者数 19人

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間で県外主要5市へ買物に行った頻度は、全ての市で「1回」の回答が最も多かった(表5)。

ほとんどの市と頻度で、前年を下回る結果となり、福岡市の「1回」は17.4%と前年比8.0P低下した。

表5. 県外での買物頻度(複数回答)(単位:%)

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1回	17.4	5.9	15.9	11.5	15.9
	25.4	11.3	19.9	21.6	22.0
2~4回	14.5	2.1	9.6	6.9	9.6
	17.4	4.0	14.5	10.3	18.0
5~9回	1.9	1.1	1.7	1.5	1.7
	4.4	1.1	4.8	3.1	3.8
10回以上	2.1	0.2	2.5	1.1	1.5
	2.7	0.4	2.1	1.9	4.0

回答者数 188人 ※上段:2018年 下段:2017年

(2) 交通手段

県外主要5市への交通手段では、全ての市で「乗用車」が最も多い(次頁表6)。

前年と比べ、「福岡市」は「乗用車」「高速バス」「JR」が低下し、「飛行機」「B&S」は上昇した。「乗用車」は5市とも前年比低下した。

表6. 県外主要5市への交通手段 (単位: %)

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗用車	60.1	73.5	85.8	81.8	87.8
	63.9	77.4	93.1	88.6	91.4
高速バス	21.8	14.3	7.7	11.8	3.3
	26.4	16.1	4.3	8.0	5.0
JR	3.2	6.1	3.9	3.6	7.7
	3.5	3.2	2.6	3.4	3.6
飛行機	10.6	2.0	-	-	-
	4.9	3.2	-	-	-
B&S(※)	2.7	-	-	-	-
	0.7	-	-	-	-

回答者数 129人

※上段:2018年 下段:2017年

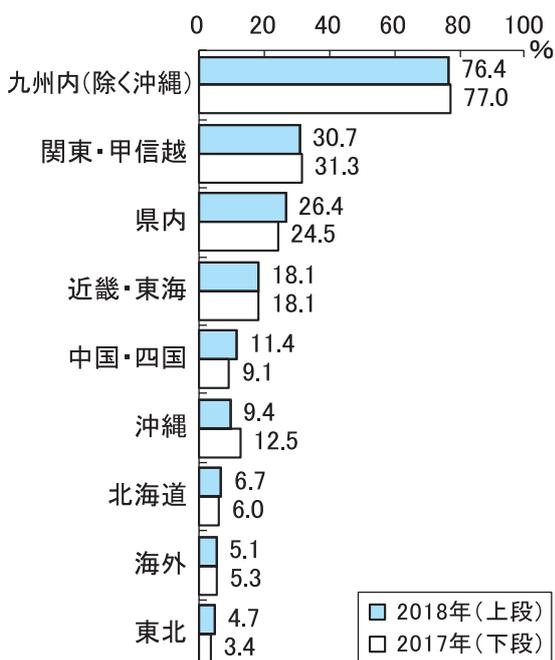
5. 今後の旅行・レジャー(複数回答)

「九州内」が最多、「県内」は3位

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内(76.4%)」が最も多く、「関東・甲信越(30.7%)」「県内(26.4%)」となった(図9)。

上位4先は前年とほぼ同等の回答率となった一方、「中国・四国(前年比+2.3P)」と「沖縄(同▲3.1P)」は順位が入れ替わった。

図9. 旅行・レジャーの行先(複数回答)



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が約6割

現在の生活状況「全体」は、昨年より「変わらない」が61.0%と最も多く、「良くなった」は13.6%、「悪くなった」が25.4%で生活状況DI(注1)は▲11.8となった(表7、図10)。

個別の生活状況も、全ての項目で「良くなった」の割合が低下し、DIが悪化した。

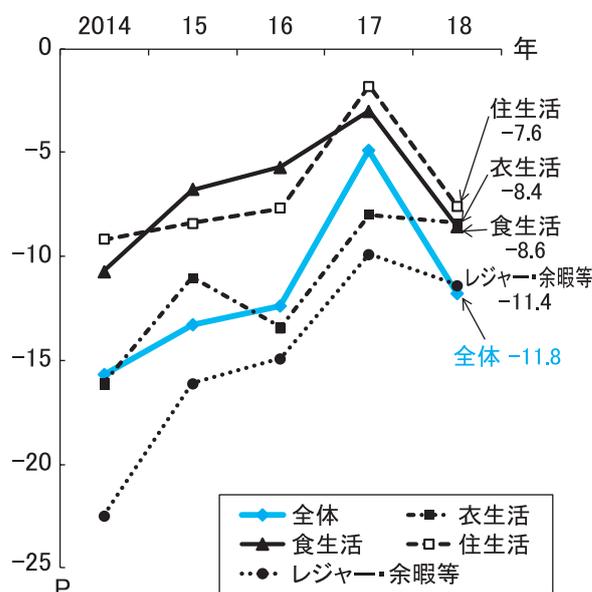
表7. 現在の生活状況 (単位: %、P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	13.6	61.0	25.4	▲11.8
	16.1	62.9	21.0	▲4.9
衣生活	9.2	73.2	17.6	▲8.4
	9.6	72.8	17.6	▲8.0
食生活	12.4	66.5	21.0	▲8.6
	14.0	69.0	17.0	▲3.0
住生活	9.6	73.2	17.2	▲7.6
	12.2	73.8	14.0	▲1.8
レジャー・余暇等	13.8	61.0	25.2	▲11.4
	15.3	59.5	25.2	▲9.9

※上段:2018年 下段:2017年

注1) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

図10. 生活状況DIの推移



7. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況(回答)は、全品目で「高い」が「安い」を上回る結果となった(表8、図11)。

品目別では、食品(生鮮食品を除く)は小麦粉等の値上がりなどから、物価状況DI(注2)が+55.4と最も高かった。同様の理由から外食費も+23.2となり、生活状況DI(前頁表7)の食生活(「悪くなった」が21.0%)を裏付ける結果となった。

交通費(+40.0)は、レギュラーガソリンが157円/ℓ(注3)と前年比11.3%上昇したことが考えられる。

光熱水道費は+38.0となり、電気料金の値上げや、灯油が1ℓあたり101円(同+17.4%)となったことが実感として表れている。

耐久消費財(+31.8)は、自動車のハイブリッド化や、自動停止装置など安全装備が強化された高価格帯の車種が増えたことも影響したと思われる。

図11. 品目別物価状況DI

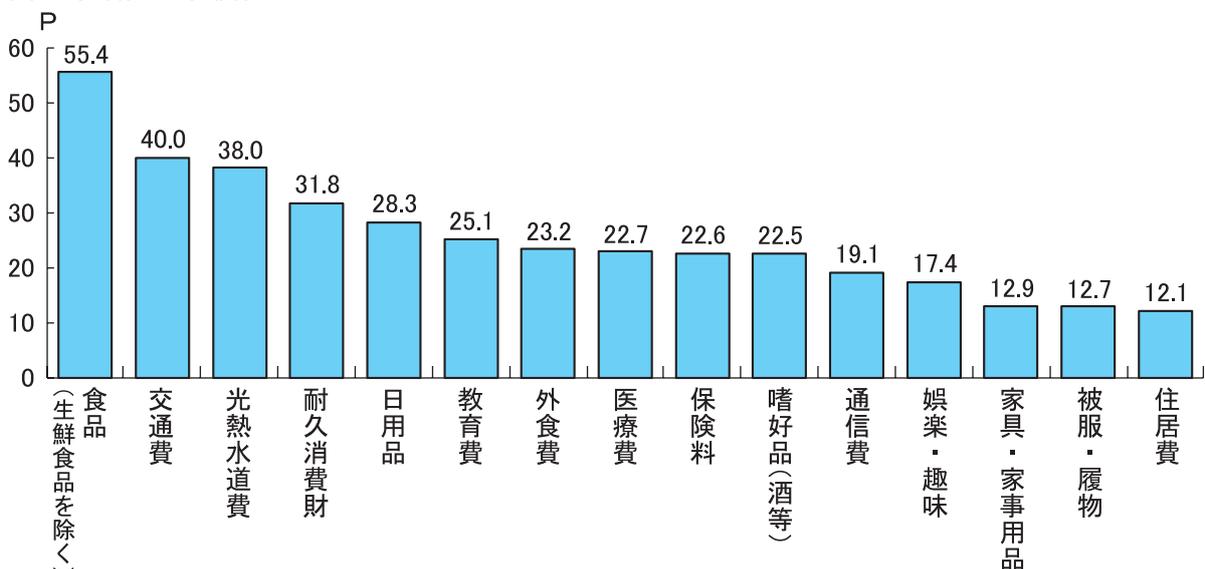


表8. 品目別物価状況 (単位: %, P)

品目	物価			
	高い	不変	安い	DI
食品(生鮮食品を除く)	56.5	42.4	1.1	55.4
交通費	46.6	46.8	6.6	40.0
光熱水道費	43.3	51.4	5.3	38.0
耐久消費財	33.6	64.6	1.8	31.8
日用品	32.4	63.5	4.1	28.3
教育費	34.4	56.3	9.3	25.1
外食費	35.9	51.4	12.7	23.2
医療費	30.2	62.3	7.5	22.7
保険料	29.7	63.3	7.1	22.6
嗜好品(酒等)	31.1	60.3	8.6	22.5
通信費	29.8	59.5	10.7	19.1
娯楽・趣味	29.5	58.4	12.1	17.4
家具・家事用品	20.7	71.5	7.8	12.9
被服・履物	21.5	69.7	8.8	12.7
住居費	17.7	76.7	5.6	12.1

注2) DI = 「高い」割合 - 「安い」割合

注3) レギュラーガソリンおよび灯油は、資源エネルギー庁「石油製品小売市況調査(11月26日)」の価格を表記

今回の調査では、ボーナスが「増えそう」の回答割合がやや上昇する中、使いみちでは「貯蓄」、目的は「老後の生活」、種類は「定期性預貯金」の回答が多く、将来への備えのために長期貯蓄を志向する様子が見られた。生活業況DIは全ての項目で前年を下回り、物価状況DIが総じてプラスとなったことから、ボーナスの用途は、やや節約志向の様子がうかがえる。(勝池)